

⑤ 溶存態無機窒素 (DIN)

図 1-1-21 に DIN の推移を示す。調査期間中、DIN は $0.4 \mu\text{M}$ から $59.8 \mu\text{M}$ で推移した。8 月中旬から 8 月下旬に表層付近で増加したが、その後低下し、9 月中旬から低い状態が続いた。

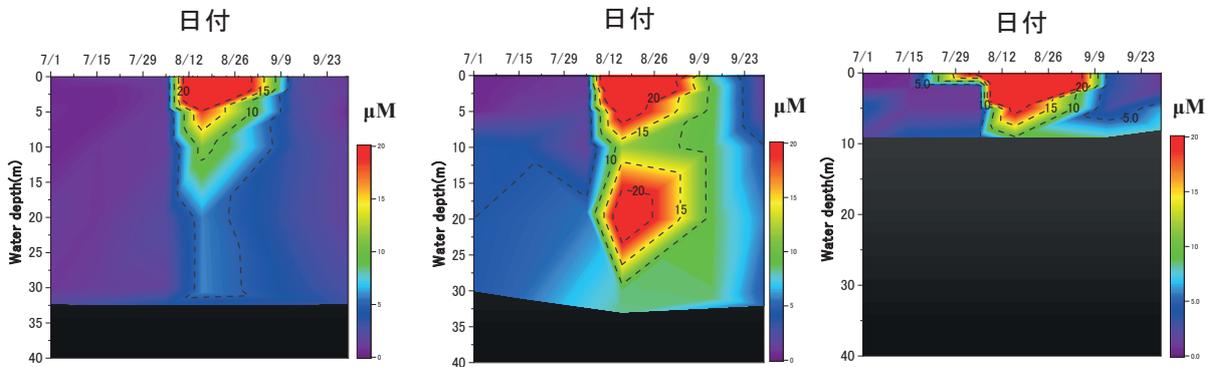


図 1-1-21. DIN の推移(代表 3 点:左図から St.1、St.5、St.9)

⑥ 溶存態無機リン (DIP)

図 1-1-22 に DIP の推移を示す。調査期間中、DIP は $0.0 \mu\text{M}$ から $2.5 \mu\text{M}$ で推移した。8 月中旬から 8 月下旬で表層から 5 m 付近で増加したが、それ以外は調査期間をとおして低かった。

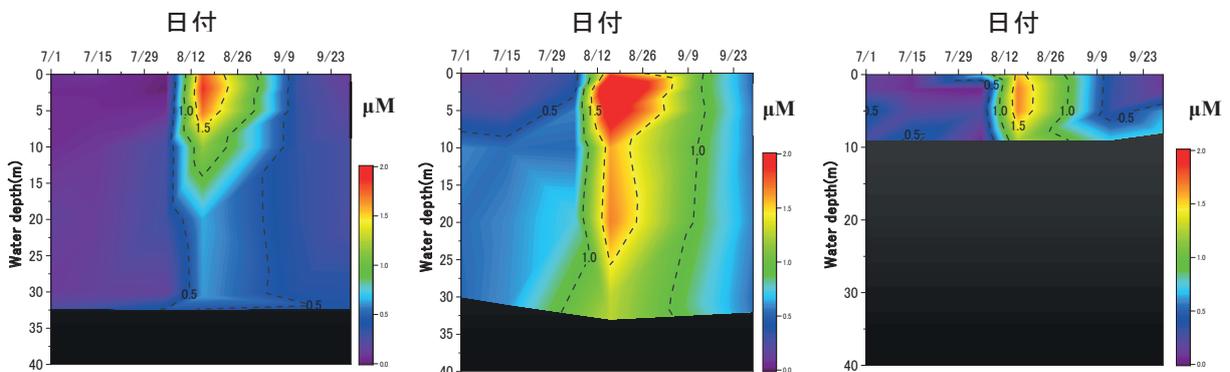


図 1-1-22. DIP の推移(代表 3 点:左図から St.1、St.5、St.9)

⑦溶存態ケイ素 (DSi)

図 1-1-23 に DSi の推移を示す。調査期間中、DSi は $0.9 \mu\text{M}$ から $223.6 \mu\text{M}$ で推移した。DIN、DIP と同様、8 月中旬から 8 月下旬に表層付近で増加が確認された他、DIN、DIP と比較して調査期間をとおして豊富に存在していた。

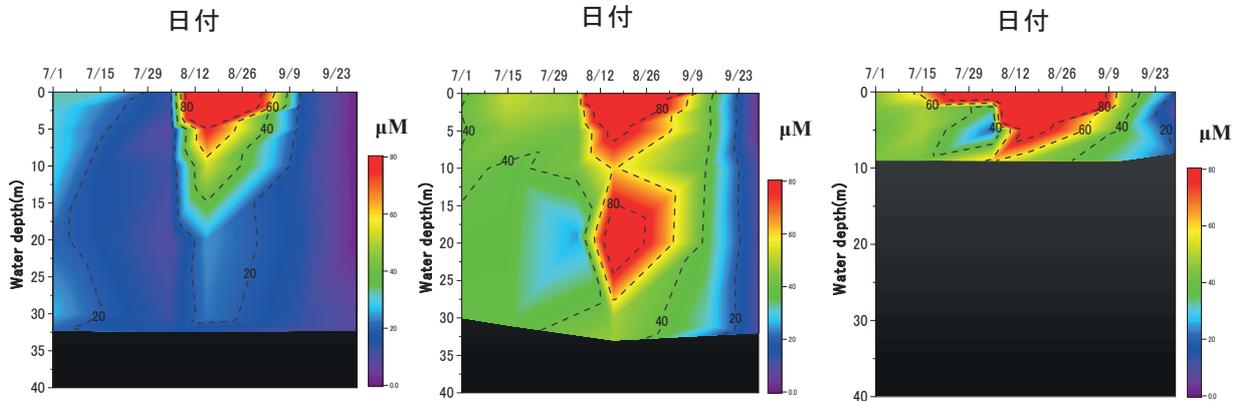


図 1-1-23. DSi の推移(代表 3 点:左図から St.1、St.5、St.9)

⑧気象

図 1-1-24 に調査期間の気温、降水量、全天日射量の推移を、表 1-1-2 に気温、降水量、日照時間の旬毎の階級区分を示す。

気温については、7 月は「平年並み」もしくは「高い」状態であり、この期間の気温の上昇は緩やかであった。8 月上旬から中旬は「低い」もしくは「かなり低い」であったが、8 月下旬は「平年並み」となり、9 月は降雨も少なく、気温の下降は緩やかであった。

降水量については、7 月に梅雨前線が停滞したが「少ない」もしくは「平年並み」であった。8 月は前線の発達により上旬から中旬が「かなり多い」であったが下旬は「かなり少ない」状態であった。9 月は降雨も少なく、「かなり少ない」状態であった。

日射量、日照時間については、降雨が多いときは少なく、少ないときには多い傾向であり、9 月は概ね安定した天候が続いた。

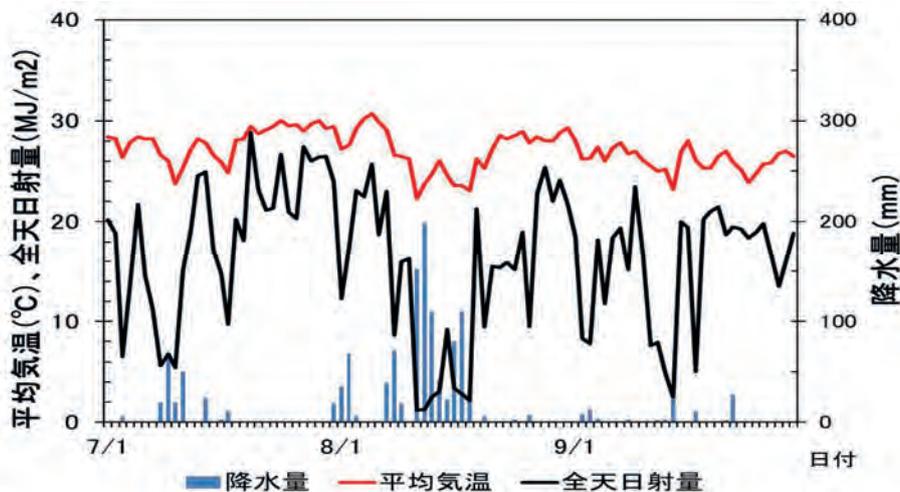


図 1-1-24. 気温、降水量、合計全天日射量の推移

出典 気象庁(観測点:熊本市)

表 1-1-2. 気温、降水量、日照時間の旬毎の階級区分

月	時期	気温	降水量	日照時間
7月	上旬	高い	少ない	少ない
	中旬	平年並み	平年並み	多い
	下旬	高い	少ない	多い
8月	上旬	低い	かなり多い	少ない
	中旬	かなり低い	かなり多い	かなり少ない
	下旬	平年並み	かなり少ない	かなり少ない
9月	上旬	平年並み	かなり少ない	かなり少ない
	中旬	平年並み	かなり少ない	かなり少ない
	下旬	平年並み	かなり少ない	かなり少ない

出典 気象庁(観測点:熊本市)

⑨河川水位

図 1-1-25 に菊池川、白川、緑川の水位の変動を示す。前述の降水量と比較すると、降雨が確認された後、水位が上昇していることが各河川で確認された。9月には三河川とも変動は小さかった。

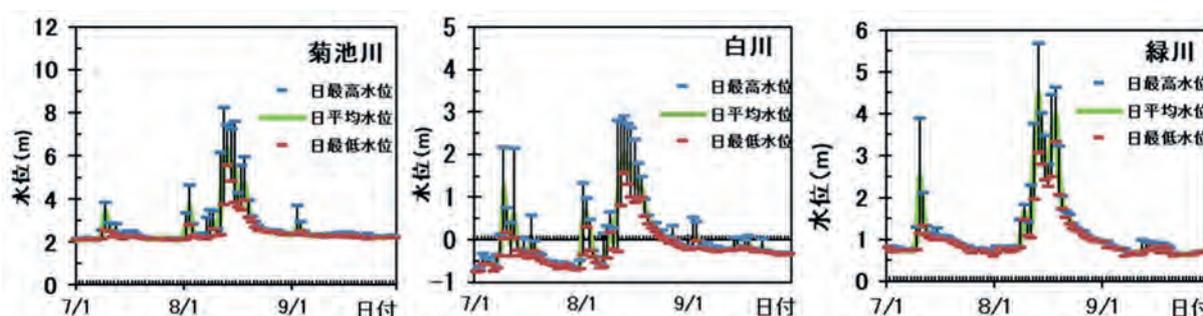


図 1-1-25. 河川の水位の変動

出典 国土交通省(観測点:菊池川(菰田) 白川(代継橋) 緑川(城南))

⑨溶存酸素濃度 (貧酸素水の発生状況)

図 1-1-26 に溶存酸素濃度の推移を示す。調査期間中、溶存酸素濃度は 2.6 mg/l から 12.2 mg/l で推移し、3.0 mg/l を下回る貧酸素水が、8月5日、8月16日調査時の st.5 及び8月5日調査時の st.9 で確認された。

7月1日、7月15日調査時は、海水の鉛直密度差の顕著な差は確認されなかった。

8月5日、8月16日調査時は、海水の鉛直密度差が大きかったが、この時期に植物プランクトンによる赤潮は確認されなかった。これは表層水温の上昇及び表層塩分の低下による鉛直密度差が影響したものと考えられた。8月5日はシャットネラ属による赤潮も発生していた。

9月13日、9月29日調査時は、顕著な海水の鉛直密度差は確認されなかった。